

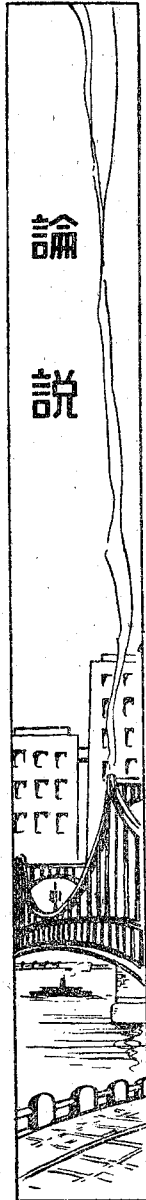
論 說

亞細亞的道路の建設

井 上 弘 道

(一)

道路は既に人類の發生と時を同じくするものであると云はれる。人間集團の呼吸づくところ、そこには原始人類の集團生活と云ふ具體的生活型態の表徴として道路が存在してゐたと云ふことは常識的ながら首肯し得られるところである。この道路は勿論現在に於けるが如き學問上の規定性の上にて起つた所謂道路ではないであらう。しかしながら、人類集團の呼吸づくところ原始社會人によつて最早や道路として意識され、道路としての使命を果しつゝあつたものが存在する限り、われわれは道路と規定することは一向差支あるまい。



恐らくは當時代の道路のもつ本質的使命、即ち集團生活上の價值性は、或は他の部落集團との單純なる交渉か、或は政治的意味に於ての交通路、即ち政治的統制力を延長した道路か、或は更に交易其他の經濟的理由及び軍事的には同一軍事的目的の爲めに結ばれた集團間の軍用道路などに求められたであらうと想定せられる。道路は斯様にして原始社會集團相互間に於いてすら、既に幾つかの社會的効用價值性を内包してゐるのである。むしろ斯くの如き道路自體の有する社會的効用價值性は人類の社會集團生活には不可缺なる必然的產物として存在したものでなければならぬ。従つて、その集團のもつ文化程度がより高度に高揚せられ、ばせられる程、それに伴つて道路のもつ社會的効用價值性が増加すべきことは贅言の必要を認めぬところである。斯様な道路に對する價值性の具體的、且つ積極的認識への發展は所謂任意的偶然的乃至は無統制なる道路から漸次計畫的道路へ展開することは必然である。既にバビロン市に於いては當時計畫的道路と目される驚くべき進歩した道路が発見せられてゐるところから見れば、古代社會に於いても道路觀念の自覺的理解乃至はそれに伴ふ計畫道路の建設は餘程早くから行はれてゐたものであることを窺知することが可能である。即ち一言にして云ふならば、一國家、一社會集團の文化程度の向上線に伴つて道路と道路網はそれに正比例した向上線の方向を辿ると云ふことが出来る。

其處で、今日の國家生活、社會生活に於いて觀るが如く物質的精神的兩方面の文化が驚異的飛躍を遂げてゐる時代にありては、それに伴ふ道路も亦極めて重要な役割を買つて須要なる立場を占め

ることになるのは亦當然であらねばならない。

政治的、經濟的、文化的諸般の關聯性に於いて國際社會は、恰も一大國家の如く有機的關係に於いて結合される状態下にあつては、それに伴ふ道路もまた國際性即ち世界性をもつものでなければならぬ。例へば、上海共同租界に設置された極めて單純な一本の道路にも、現今の社會に於いては既に各國の政治的、思想的、經濟的な對立抗争政策の充満した世界性を内包してゐるが如く、總ての道路には世界性の血の流れてゐるものと見なければならぬ状態にある。斯様な意味に於いて現今世界に於ける道路は極めて重大であつて、今日の如く複雑多岐な國際社會場裡にあつては道路が或は一弱體國に侵入する強國の植民政策の前衛として考へられる場合もあり、且つまた見えざる前進を不斷に續けつゝある赤化思想軍の進軍路として考へられる場合もある。そして更に、經濟的理由乃至は軍事的理由に基く積極的な道路など今更決して不思議な問題でない程道路自體のもつ社會的國家的使命が複雑になつてゐるのである。

英國は既に東洋漸進の政策に於いて東印度會社を道路の基點として全印度に、印度支配權確立のために道路網を完成したが如く、而して最近世に於いて同様な方法に基き香港、上海等を基點とした大亞細亞支配權の完成のための道路を着々として完成しつゝある。そしてまた、蔣政權に對するソ聯の軍需資材供給道路もまた、やがて蔣政權から支那民族に對する赤化の自由權とそして赤化によつてやがて生ずるであらう領土的支配權の擴大とを要求するための道路の建設を急ぎつゝある。

しかるに、今やアジアは永き眠りから醒めて亞細亞の意識の擴充作業によつて偉大なる轉換を行はんとしてゐる。このとき東亞の新天地に立つて、現存亞細亞の道路のもつ特殊相に就きて考察し更に進んで亞細亞的道路の建設に邁進せんとすることは強ち徒勞の業ではあるまいと思ふ。

(11)

支那は國際關係の最も複雑化した國の一つである。従つて支那の主權者が廣謨たる領土の上に晴れがましい生活を展開してゐるとは云ひながら、支那自體のもつ主要都市乃至は交通機關の一つ一つは歐米の權益てふ美名？ の下に完全に彼等の意企のまにまに委ねられてゐると云ふ状態である。例へば支那の鐵道が支那に於ける各國の權益の對象となつてゐる事は一例を擧げるならば滬杭鐵道が英國中國公司より百五十萬磅、滬寧鐵道が同じく英國中國公司より二百九十萬磅の借款によつて成立してゐるが如く、全國鐵道の借款合計は約十三億五千萬元と云はれる中約十億元は諸外國からの借款鐵道であると云はれる。然も支那が借款を締結した國は決して一國ではない。英國あり佛國ありソ聯ありである。従つて、各々その鐵道は外國權力の擴張の姿以外の何物でもあり得ない。斯様に支那は外國權益の複雑な國である。即ち支那は既に自らの獨立性を否定して外國權力の抗爭場裡と化し去り、その利權獲得のために寸斷された憐れむべき國であらねばならない。斯様な支那のもつ特殊相は、支那が實質的には國家的存在を失ひ辛じて歐米依存歐米追従の姿に於いて露命をつなぎあることを明確に證明するものである。

支那がその傳統的政策として誇る以夷征夷政策は今やはかなくも自らの墓穴を掘るに至つたのである。蔣政権に於いてもその最も優れた利巧な政策と考へられてゐたところのかゝる方法、即ち支那領土内に於ける諸外國の權益抗爭を以つて支那安定の基底たらしめやうとしたかゝる手段は、實はその政治的價値よりも、歐米の支那支配の確立の爲めに役立つに過ぎなかつたのである。かくして、支那と云ふ空間に張られた歐米てふ蜘蛛の巢は完全に支那を自家の手中におさめ得るに至つた。支那に張りめぐらされた歐米の道路網は實に蜘蛛の巢に等しいはたらきを演じるのである。眼を大支那廣漠の地に馳せるとき、都市から都市へ野から野への近代的な道路網は既に支那自體のものでもなく従つて支那自身のためのもでもなく、歐米白人の血の通へる歐米のそれであることを知ることが出来る。亞細亞民族としての支那は歐米道路網の完成と共にその個有の民族性を失つて行きつゝある。そして、亞細亞の道路の殆んどすべてが歐米依存の方向に向つて展開してゐることは事實である。この一事からして、一般に道路は依存集團乃至は依存國家の方向に向つて延長されてゐるものであることを肯定することが出来ると同時に、その國に於ける道路の性質によつてその國の世界社會に於ける存在意義を窺ふことが出来るのである。

現在の支那は只一條の鐵路にしても、既にそれぞれの國の權益の擁護のために各自勝手な時間表によつて運轉されて相互の連絡と云ふことが考へられてゐないやうに、支那の道路もまた國家的見地から有機的な統制下に計畫された道路網は存在してゐない。もし假りにあつたとすれば、それは

支那軍閥が歐米依存の悲しむべき立場に於いて一軍閥がする軍事的道路であるに過ぎない。元來支那國內的な歴史的發展の姿に於てさえ、一地方的な都市と村落とを結ぶ局地的道路の複雑化でしかなかつたのである。今日まで支那人の意識に於いて、國家的意識の強度よりも一地方的例へば山西省廣東省とか云ふ局地的意識が極めて強度であつた生活相を見るならばそれは全くかゝる道路網の存在型を立證するものであらねばならない。そしてまた、支那自體に於ける歴史的な道路を見るならば、それは異なる民族集團の傳統的な抗争のために役立たされた道路であつたか、または軍閥政治の弊を受けて各省独自の支配領域の保護と民衆搾取の道路網でしかなく、完全なる獨立國乃至は統一國支那としての道路網はそれ自體存在してゐなかつたのである。この間隙に乗じて支那大陸を切斷した歐米道路が夫々の國が欲するがまゝに建設され、主要都市を彼等の支配權下に掌握して第二のアフリカ大陸出現の前夜の觀を呈するに至つたのである。独自の組織ある道路をもたざる國はそれ自身の國家の獨立性をさえ失はねばならない事はかゝる事情に於いて明である。今や支那事變を契機として大亞細亞はそれ独自の呼吸づきを始めようとしてゐる。言ひ換へるならば、大亞細亞は歐米權益の舞臺から救出されて亞細亞の呼吸づきを開始しつゝあるのである。然しながら、この劃期的な清々しい亞細亞の呼吸は先づ以つてそれを虫ばみその獨立國家性をさえ失はしめた歐米道路を大陸の一切より放逐して亞細亞が亞細亞の道路建設を目下の急務としなければならぬのである。このことこそ實に大亞細亞更生の基本的な問題であらねばならないであ

亞細亞が亞細亞の道路を發見し、亞細亞の道路が大陸に濺たる活動を開始したときこそ、大亞細亞はそれ本然の姿に立ち返へる時でなければならぬ。

然らば、眞正なる大亞細亞の道路は如何にして計畫され如何にして完成せらる可きものであらうか。この點に關しては幾多道路計畫者乃至は道路技術者の偉大なる活動が期待されるではあらうが、しかし道路技術や道路工學一般の問題は別として大局的見地よりこれを規定するの自由が假りに許され得るとするならば、先づ第一に興亞大偉業の完成はそして具象的な實現は上述の如く一國家一集團の獨立的使命を支配する道路網の整備にあることに着眼して、亞細亞は亞細亞の獨立性を維持し發展せしめるところの大亞細亞道路の完成に邁進しなければならぬと云ふ點にある。即ち、大亞細亞道路の完成とは大亞細亞の民族と歴史と國家の基礎の上に立脚して、これを他のあらゆる國家の政策的魔手より保護し亞細亞民族の發展と興隆乃至は大亞細亞經濟の確立、ひいては亞細亞個有の精神生活とその文化の發展のためのアジア的統制の下に於ける道路網の完成にシなくてはならない。茲で云ふ亞細亞とは單に現在支那一國を指稱してゐるのではなく、凡ゆる亞細亞民族意識によつて統一せらるべき所謂大亞細亞民族に對するの謂であるが、これらの大亞細亞民族が亞細亞と云ふ天惠の領域に於いて先づ精神的、經濟的、文化的、そして政治的大同團結をなして、安んじて大

亞細亞にその生命を委ねその骨を埋むることが出來得る境域に到達したとき初めて大亞細亞は亞細亞民族たるわれわれの樂土たり得るであらう。

しからば、この亞細亞的道路の完成が證明する亞細亞の獨立は如何にして可能であるか。また亞細亞的道路が意味するときの亞細亞の姿は如何なるものであらねばならないか。かゝる問題の解答は即ち亞細亞的道路の完成の姿を明確にわれわれに知らしめることになるであらう。

上述したが如く支那は歐米の植民地と化し支那自體一の國家としての實質を遺憾ながらもち得てゐない。法律的形式論からするならば支那は或は中華民國と呼はるべき一獨立國家であるかも知れないが、支那は自ら自らを獨立國として防衛するところの權能を喪失した一地域に過ぎないと云ふことが正しい觀方であらう。従つてわれわれは、かゝる非國家的存在たる支那と同等の狀態に於いて協同すると云ふことはあり得ない現象であつて、むしろ支那を支那自體のためにそしてまた亞細亞自體のために日本の國家權力内に包含することによつて反亞細亞的なる勢力から防衛すると云ふことが必要であり且つ當然のこととならざるを得ないのである。

蔣介石は自ら英國の奴隸となりソ聯の傀儡となつて、支那の獨立國としての面目と實質とを蹂躪し放棄したのである。従つて、亞細亞が本然の亞細亞に立返へるためには日本の勢力によつてかゝる反亞細亞的勢力を亞細亞の外に排除することが要求せられる。即ち、日本が亞細亞の獨立のためあらゆる犠牲を拂つて外敵を防衛する役割を演じなければならぬとするならば、亞細亞は自ら

ために日本の國家圈内に包含せられ日本の統制に服さなければならぬことになるのである。されば所謂大亞細亞は諸民族の併立乃至は諸國家の協同と言ふ姿に於いて理解さるべきではなくして、完全に亞細亞を防衛し得る一勢力の統制と指導の下にある一體としての亞細亞であらねばならない。極論することが許されるならばそれは一つの大亞細亞國家としての存在であらねばならないのである。かく現實に於いて亞細亞が小部分の寄木細工的所産でないならば當然亞細亞的道路も地方的道路の無組織的算術的總和であることは出來ない筈である。茲に亞細亞的道路の建設は既設の道路網を根本的にやり直すことによつてのみ完成を見ることが出来る。われわれが生命を捧げてゐる聖戰が破壊であることを必要とするのは實に根本的に新しき組織を建設せんが爲めであるのと同様に、亞細亞的道路の建設のためには既成道路網の破壊を必要とする所以である。

(四)

従つて、昨今論ぜられてゐる東亞協同體理論なるものは現實の前にもろくも消え去らねばならぬ机上の可憐な遊戯に過ぎない。即ち、各國家？の獨立——そんなことの云へる國家は亞細亞には少い筈である——を許容しそれ独自の文化を勝手氣儘に開花させながら、亞細亞のお互が提携するなど云ふインテリの空論は餘りにも現實を無視したものであり國家の本質に無知なるものである。かゝる空想の上に立てられたる亞細亞乃至は亞細亞的道路なるものは、何ら聖戰前の状態と異るところがない筈である。再び云ふが、地方的道路をそれがイギリス的のものでなくして支那的なもの

シヤム的なものであつたにしてもかゝる分散的な國內的地方的道路が如何に加算されたにしても亞細亞的生存のための亞細亞的道路とはなり得ないであらう。蜘蛛の巢は如何にそれが大きな空間に張られてゐたにしても決して部分的な巢の寄せでは無いが如く——寄せでは巢のはたらしきを完ふすることは出来ないと言ふことを蜘蛛は知つてゐる——亞細亞的道路網も一つの中心をも同一な質の道路の延長であり擴大であらねばならない。

大亞細亞建設への道路は斯くして只一本日本を起點として大陸に普遍的に展開すべき所謂日本の道路でなければならぬ。この一本から派生した道路網が各民族の一人一人の心情にまで延長し一家一家の經濟生活にまで到達するものでなくてはならない。大陸へ通ずる道路網は日本精神と日本文化との精隨を交通させ、またもつて亞細亞への外敵を排撃するための防衛の道路であらねばならない。

道路の消長は一國の消長を支配すること極めて重大である。ましてや、大亞細亞更生自覺の頭初に當つて大亞細亞的道路の完成と、しかして日本を起點とする道路網の完成は、亞細亞民族國家人が他の諸國に對してもつ獨自性の顯現に外ならない。それは實に大亞細亞の固き團結の表徴だからである。この亞細亞に於ける獨自性の顯現は決して諸外國のそれと矛盾するものでもなければまた阻害するものでもない。むしろ、この亞細亞的道路の嚴存が立證する亞細亞の一九としての團結力こそ、世界平和人類繁榮の永久的保障をなすものである。